

銅版画家

# 山本 容子 さん



## 「アートは心を癒す」「くすり」。病院とアートの幸福な出会いを求めて

アートを通じて病院を癒しの空間にする「アート・イン・ホスピタル」。銅版画家の山本容子さんは2005年からこの活動に取り組んでいます。入院・通院する人、その家族、働く人たち。それぞれの心に寄り添うアートの力、これからの未来について伺いました。

### 父の死をきっかけに考えた「病院」と「アート」の出会い

私が「アート・イン・ホスピタル」というものに関心を持ったのは、約30年前。父が手術や入院を経て亡くなったことがきっかけです。

父を見送った後、さつきまで父が寝ていたベッドに横たわってみると、目に入ってきたのは無味乾燥で少し汚れた天井。病室には私の絵も飾っていただけ、動けない父が人生の最後に目にしてきたのはこの天井だったのかと思うと、哀しいというよりも悔しくて、涙があふれてきたのです。

私にとってアートは時代を映し、時代とともに変化していくもの。つまり作品を発表するということは、作品を見た人の反応を知った上で、次の作品につなげるという「自分のため」の活動でした。それが父の死をきっかけ

に、「見る人のため」という視点も持つようになったのです。病院で長い時間を過ごす人が、美しいもの、心が開かれるようなものに出会える空間を現できないだろうか――と。

そんな思いを、対談の仕事でお会いした中部ろうさい病院の堀田 饒先生にぶつけてみました。すると先生から「それは「アート・イン・ホスピタル」といって、スウェーデンやイギリスが先進的に取り組んでいます」と教わっただけでなく、ちょうど建設中だった病棟に天井画を描くチャンスがあったのだのです。

### スウェーデンで学んだアートの役割とは

2011年には、私の「アート・イン・ホスピタル」への関心を知ったテレビ局がスウェーデンへの取材旅行に誘われ、スウェーデンに滞在しました。スウェーデンには、多くの公共施設を一般の人が見学できる仕組みがありました。病院が地域に開かれ、誰にとっても居心地のいい空間になれば、それも嬉しいことかもしれません。

「病院にとって、ふさわしいアートとは何か」「父の死をきっかけに考えたこの問いに、いまだ答えは出ていません。一つ言えるのであれば、そこに関わる人みんなが話し合い、一緒に考えて、答えを見つけていく努力を続けることが何より大切なのではないでしょうか。」

私自身、これからは柔らかな心、学ぶ心を持ちながら「アート・イン・ホスピタル」の活動を続けつつ、アーティストとしての自分の可能性もさらに広げていきたいと思っています。

送ってほしい」と依頼が届いたのです。制作している間にも、分娩室からお母さんが頑張る声や赤ちゃんの産声が聞こえてきました。絵の完成後、スタッフの皆さんが口々に感想を伝えてきてくれたのも嬉しかったですね。ある看護師さんがアンケートに書いてくれた、「以前は殺風景な廊下だったと気づきました」という言葉も印象に残っています。「アート・イン・ホスピタル」は、患者さんだけでなく、そこで働く人の心のケアにもつながると実感できたからです。

### アーティストをも癒す「アート・イン・ホスピタル」の未来

2014年に描いた、高松赤十字病院の壁画にも思い出があります。横6mを超える大きな絵を描いたので



上段／ブランク作曲の「愛の小径」の世界を表現した、高松赤十字病院の壁画。下段／中部ろうさい病院では、天井に直接パステルで絵を描くという初めての試みに挑戦。

を企画してくれました。現地で学んだことは数え切れませんが、中でも心に残ったのは「病院でのアートは、薬にならなければいけない」ということ。見たくない絵、避けて通りたい絵は毒にもなるという厳しい言葉は、胸にずしりと響きました。

帰国後すぐに手がけたのが、和歌山県立医科大学附属病院の周産期医療センターの壁画を描くこと。そこは赤ちゃんが生まれる喜びと、不妊治療やマタニティブルーに悩む人、早産で新生児集中治療室(NICU)にいる赤ちゃんとその家族の心配や哀しみが、いわば混在している空間です。そこへ私の絵で「ママさんたちにエールを

2018年には、私の考えに共鳴してくれた日本画家、陶芸家、ステンドグラス作家とともに、前橋赤十字病院の「アート・イン・ホスピタル」に取り組みしました。私も含め、4人それぞれの作品が院内の各所に飾られ、一つの美術館のような趣きがあります。スウェーデンでは「アート・ツアー」と

### Yoko Yamamoto

1952年生まれ。京都市立芸術大学西洋画専攻科修了。都会的で軽快洒脱な色彩で独自の銅版画の世界を確立し、絵画に音楽や詩を融合させるジャンルを超えたコラボレーションを展開。数多くの書籍の装幀、挿画を手がけ、作品集、絵本、エッセイなどの著作も多数。今年11月に京都競馬場で開催する特別展「Au Passage 4人の個展―競馬場のパサージュにて」で、新作を出展する。